

英語教育における小中連携に関する一考察

－「小学校外国語活動」に関する岐阜市の小中教員の意識調査－

岐阜市立岩野田北小学校教諭 山口 美穂
 岐阜大学教育学部准教授 巽 徹

1 はじめに

2011年の「小学校外国語活動」必修化を前に、全国の小学校の97%以上で（文部科学省、2007年調べ）「英語活動」が何らかの形で導入されている。岐阜市においては、2004年度より特区事業として教育課程の特別な編成を行い小学校1年生より「教科」として「英語活動」を実施してきた。学習指導要領では、「小学校外国語活動」において、児童の「コミュニケーション能力の素地」を育成し、さらに中学校英語科では、「コミュニケーション能力の基礎」を育成することが目指され、小学校・中学校が連携した英語教育のあり方が注目されている。小中が連携し、継続的な英語教育を行うには、小中の教員が互いの教育内容や指導方法、さらには、小中連携のあり方について共通理解を図ることが重要である。

本研究は、小学校教員と中学校英語科教員との小中連携に対する意識の違いについて、岐阜市を例にとって調査を行うことをねらいとする。具体的には英語活動を通して育てたい態度や技能について、小中の教員がそれぞれどのように考えているかを明らかにし、その意識に差があるかを検証しようとした。それにより、今後の英語教育における小中連携のあり方について考察したい。

2 調査計画

2.1 目的

岐阜市の小学校教員と中学校英語科教員の英語教育における小中連携に対する意識の違いを明らかにし、小中連携のあり方を探る。

2.2 対象

岐阜市内の小学校教員81人 岐阜市内の中学校英語科教員72人。

2.3 実施時期

2009年6月～8月

2.4 内容

- 1) 小中連携の必要性に対する意識
- 2) 校区内の小中連携の実態
- 3) 小中連携の内容
- 4) 小学校英語活動を通して育てたい力（態度面）
- 5) 小学校英語活動を通して育てたい力（スキル面）
- 6) 小学校英語活動が中学校英語科授業に与える影響（中学校英語科教員のみ）

2.5 方法

質問紙調査（資料参照）

3 調査結果と考察

3.1 小中連携の必要性に対する意識

表1 小中連携の必要性に対する意識

	小学校	中学校
大変必要	28%	42%
ある程度必要	60%	54%
どちらともいえない	10%	1%
あまり必要でない	2%	3%
まったく必要でない	0%	0%

小中連携の必要性について尋ねた。結果は表1の通りである。「大変必要」「ある程度必要」も含め、小中共に90%前後の教員が小中連携は「必要」と回答した。特に、中学校英語科教員では、96%がその必要性を認めており、小学校教員の割合を上回っている。英語活動を行い、児童を「送り出す側」の小学校教員に比べ、「受け入れる側」の中学校英語科教員が、連携の必要性をより強く意識している実態が明らかになった。

3.2 小中連携の実態

小中連携の実態を明らかにするために、小中相互の「授業参観」や「研究会への参加」経験の有無やその頻度について尋ねた。結果は次の通りである。

表2 小中相互の授業参観の有無

	小学校	中学校
何度かある	49%	48%
1, 2度ある	25%	35%
ない	26%	17%

表3 小中相互の研究会参加の有無

	小学校	中学校
何度かある	23%	27%
1, 2度ある	23%	45%
ない	54%	28%

表2からわかるように、80%前後の小中学校英語科教員が相互の授業参観を行った経験がある。また、中学校英語科教員の70%以上が小学校英語活動の研究会等に参加した経験があり、小学校教員が中学校の英語科研究会へ参加した割合を上回っている。これは、中学校の英語科教員が英語の専門家として小学校英語活動に対する興味関心が高いということもできる。しかし、小学校教員は全科教科を担当しており、複数ある教科の一つとして英語科の研修会に参加していることを考えると、必然的に中学校英語科教員に比べ参加の可能性が低くなる傾向があるものと思われる。また、小中連携をテーマとした授業研究会においても、小学校英語活動を中心に授業が公開されることが多く、小学校側が中学校側に積極的に呼びかけて研究会、授業公開が行われるケースが多いことを示しているともいえる。このように、研究会への参加の有無に若干の差が見られるものの、概ね、授業参観、研究会への参加とも小中連携に関する取り組みが積極的に行われていると言ってよい。

ところが、表4、表5からわかるように、自らの学区内における小中連携となると、状況は異なってい

ることがわかる。つまり、研究推進校や地域の先進的な取り組みを行う学校の授業公開、研究会が積極的に開催され、そこに多くの教員が参加しているにもかかわらず、自校区内の小中連携は、それほど進んでいない実態が明らかになった。

表4 校区の小中の指導内容の理解

	小学校	中学校
ある程度把握	5%	8%
少し把握	21%	35%
まったく把握していない	74%	57%

表5 校区内の英語教育に関する話し合いの実施

	小学校	中学校
何度か	5%	7%
1, 2度	23%	20%
ない	72%	73%

自校区内の小学校・中学校の英語教育の内容を把握しているのは、小学校教員で約20%、中学校英語科教員で40%余りとかなり少ない。さらに、校区内の英語教育について話し合いを行ったことがある教員は30%に満たないことがわかる。つまり、互いに一般的な小中の指導内容はイメージとして持ちながら、目の前の児童・生徒が学習してきた具体的な内容や今後学習していくことになる内容について理解を深める機会が多くないことがわかる。ただし、中学校英語科教員は、校区内小学校との話し合いの実施が30%未満でありながら、半数近くが小学校の指導内容を若干でも把握していると回答しており、「受け入れる側」である中学英語科教員の小中連携に対する関心が高く、入学してくる生徒の実態などを通して小学校における活動内容を理解しているものと考えられる。

3.3 小中連携の内容

小中連携の必要性に対して「大変必要」「ある程度必要」と回答した小中合わせて139名の教員に、具体的な連携方法がそれぞれどの程度重要であるかを5段階で評価し回答してもらった。データの処理に当たっては、「大変重要」を5点、「ある程度重要」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり重要でない」を2点、「全く重要でない」を1点とし、その平均点を示した。

表6 小中連携の内容の重要度

	小学校	中学校
小中互いの指導法の学習	4	4
小中互いの授業参観	4.12	4.19
小中一貫したカリキュラム作成	3.69	3.8
小学校教員が中学校で授業を行う	2.79	2.69
中学校英語科教員が小学校で授業を行う	3.21	2.91

表7 授業参観の頻度とその重要性認識の関係

	小学校	中学校
何度かある	4.16	4.2
1, 2度ある	4.11	4.1
ない	4.0	4.09

表6からわかるように、小学校教員も中学校英語科教員もほぼ同じような回答傾向が見られた。「互いの授業参観」「互いの指導法の学習」「一貫したカリキュラム作成」は4点前後で重要度が高く評価された項目である。特に「授業参観」及び「一貫したカリキュラム作成は」中学校英語科教員の方が重要度を認めていることがわかる。ここでも「受け入れる側」である中学校英語科教員が、連携の必要性を強く意識していることがうかがえる。また、表7に示した「授業参観」の頻度と「授業参観」の重要性に対する意識の関係をみると、授業参観を行った頻度が高い教員程、その重要性を高く評価する傾向が見られ、授業参観の有効性を参観者が実感していることがわかる。

「中学校英語科教員が小学校で授業を行う」ことについては、小学校教員が重要度を認めているのに対して、中学校英語科教員はそれほど重要度を認めていない。これは、小学校教員が、英語の専門的知識のある中学校英語科教員に英語活動を指導してもらう機会を設けたいと望んでいるのに対して、中学校英語科教員は自らが小学校に向いて英語活動の授業を行うことに消極的であることを示している。その理由については尋ねていないが、中学校英語科教員が小学校を訪問し授業を行うための「時間の確保」や「機会の提供」がなされていない現状があるものと思われる。今後の調査が必要である。

3.4 小学校英語活動を通して育てたい態度、育てたい態度

次に、「小学校英語活動を通して育てたい態度、育てたい態度」を12の項目について、どの程度重要と考えるか、5段階で評価し回答してもらった(表8)。

表8 小学校英語活動を通して育てたい態度・育てたい態度

	小学校	中学校
①大きな声で話す	4.28	4.55
②相手の目を見て話す	4.7	4.67
③ジェスチャーを付けて話す	4.17	4.07
④表情豊かに話す	4.25	4.33
⑤誰とでも積極的に会話する	4.52	4.74
⑥友達と教え合う	4.28	4.46
⑦聞き返す、確認する	4.42	4.56
⑧推測して聞く	4.26	4.1
⑨会話をつないでいこうとする	3.85	3.89
⑩ ALT の話の内容を類推する	4.09	4.12
⑪外国の人に積極的に話しかける	4.12	4.38
⑫落ち着いて学習する	4.3	4.6

ほぼ全ての項目で評価が「4」以上となっており、小学校教員・中学校英語科教員共に、どの項目も「ある程度重要」と考え、小学校英語活動を通して育てる態度に対して同様の意識であることがわかる。ただし、多くの項目で中学校英語科教員が小学校教員に比べ、重要度を高く評価する傾向があり、特に、「落ち着いて学習する」「大きな声で話す」「誰とでも積極的に話す」「外国の人に積極的に話す」(5%水準で有意差)「友達と教え合う」(有意傾向)などの項目では統計的な有意差又は有意傾向が見られた。小中教員の間で意識の差が見られるこれらの態度は、中学校段階では生徒の精神的な発達段階が影響し指導が難しくなる項目であると思われる。そこで、中学校英語科教員がこれらの項目を小学校英語活動を通して育てたい態度として特に期待しているのではないかと考える。

3.5 小学校英語活動を通して育てたい技能、育てたい技能

「小学校英語活動を通して育てたい技能、育てたい技能」を16の項目について、どの程度重要と考えるか、5段階で評価し回答してもらった(表9)。

表9 小学校英語活動を通して育てたい技能・育て欲しい技能

	小学校	中学校
①外国の生活・文化・行事を知る	3.93	3.75
②外国と日本の文化の比較	3.8	3.64
③英語の言語の豊かさ・おもしろさに気付く	3.76	4
④簡単な英単語を聞いて、意味がわかる	4.09	4.1
⑤簡単な英単語の文字を見て意味がわかる	3.32	3.25
⑥簡単な英単語を正しく発音する	3.73	3.54
⑦基礎的な英文法を習得する	2.81	2.86
⑧日常的な会話表現ができる	3.66	3.68
⑨ローマ字を習得する	3.62	4.15
⑩アルファベットを読む	3.62	4.33
⑪アルファベットを書く	3.21	3.46
⑫簡単な英文を聞いて意味がわかる	3.77	3.53
⑬簡単な英文を音読する	2.73	2.94
⑭簡単な英文を書く	2.33	2.5
⑮ ALT の話の理解	3.96	3.88
⑯外国の人と簡単な英会話をする	3.63	3.62

先に述べたように、「態度」の育成についてはすべての項目において、小中教員とも「4」前後の評価がなされ重要度を認めていたのに対して、英語の「技能」面については、全体的に重要度が低く認識されている。小学校教員が「ある程度重要」と認識している項目は「簡単な英語を聞いて、意味がわかる」一項目のみである。小学校学習指導要領で、小学校英語活動のねらいを「コミュニケーションを図ろうとする態度の育成」や「英語に慣れ親しむこと」に重点を置いて示していることから、英語の「技能」の習得が「態度」の育成に比べ、低く評価されているものと思われる。しかし、「アルファベットを読む」「ローマ字を習得する」「アルファベットを書く」などの項目で、中学校英語科教員が小学校教員に比べ重要度を高く評価しており、文字指導に関して小中教員の間で意識の違いがあることが明らかになった。中学校英語科教員はアルファベットを読むことや書くこと、ローマ字の習得など、中学校のリーディングやライティングに繋がる技能を小学校英語活動で育てて欲しいと願っていることがわかる。小学校英語活動では文字の提示の有無についても様々な議論が続けられているが、中学校の英語学習にスムーズに移行していくために、今後、小学校英語活動における「望ましい文字指導の在り方」を検討していかなければならない。

さらに、小中の指導内容の整合性も検討すべきである。たとえば、「ローマ字の指導」を例にとってみると、小学校4年生の国語の教材で扱われる「ローマ字」の単元では「日本式・訓令式」のローマ字が指導されているのに対して、中学校英語科教科書では、「ヘボン式」が指導され、小中でのローマ字指導に一貫性がない。また、小学校でローマ字を指導する際のアルファベットの書き順と中学校1年生で指導されるアルファベットの書き順が異なるなど、細かい違いもみられる。

以上のように、小学校英語活動を通して育てたい「技能」に対しては、育てたい「態度」に対する意識に比べて、小学校教員と中学校英語科教員の間で認識の違いがある事が明らかになった。今後の小中連携の取り組みの中で理解を深めていくべき課題である。

3.6 小学校英語活動が中学校英語科授業に与える影響

小学校英語活動の開始により、中学校1年生の授業において、生徒の能力や学習態度に何らかの変化が見られるか、17項目について、中学校英語科教員に5段階で評価し回答してもらった(表10)。項目のうち①～⑨は肯定的な影響、⑩～⑰は否定的な影響である。データの処理に当たっては、それぞれの項目について、「強

くそう思う」を5点、「ややそう思う」を4点、「どちらともいえない」を3点、「ややそう思わない」を2点、「そう思わない」を1点とし、その平均点を示した。

表10 小学校英語活動が中学校英語科授業に与える影響

	中学校
①発音が優れている	3.14
②リスニング能力が優れている	3.63
③スピーキング能力が優れている	3.49
④リーディング能力が優れている	2.47
⑤ライティング能力が優れている	2.19
⑥語彙が豊富である	3.44
⑦文法能力が高い	2.42
⑧英語学習に対する意欲・関心が高い	3.16
⑨外国の人に対してものおじしない	3.85
⑩中学校の外国語学習に新鮮さが低くなる	3.04
⑪文字学習に抵抗感がある	3.07
⑫既習事項を再び学習する抵抗感がある	2.64
⑬文法事項の学習に抵抗感がある	2.92
⑭歌やゲーム活動に意欲を示さない	2.53
⑮会話活動に意欲を示さない	2.36
⑯落ち着いて学習できない	2.51
⑰英語力の個人差がある	3.76

①～⑨の項目で、比較的影響があると認識されている項目は「外国の人に対してものおじしない」「リスニング能力が優れている」「スピーキング能力が優れている」「語彙が豊富である」など、コミュニケーションを図ろうとする積極的な態度や音声・語彙の充実などである。また、「文法能力」「リーディング」「ライティング」などの力は低く評価されている。これらの項目はいずれも、学習指導要領に示された小学校英語活動のねらいや内容に沿った結果であるといえる。しかし、①～⑨のいずれにおいても「4」以上に評価されている項目は見当たらず、中学校英語科教員は小学校英語活動の影響を余り強く感じていないと言える。また、「英語力の個人差」がやや認められるものの、小学校英語活動の影響により、中学校1年生の段階から「英語学習への新鮮さが失われる」「意欲の低下が見られる」「中学校の学習内容に対する抵抗感がある」などの影響はそれほど見られないと中学校英語科教師は認識しているようである。しかし、今後、小学校英語活動の進展と共にその影響がどのように現れてくるか、継続して調査を行う必要がある。

4 まとめ

調査の結果から、岐阜市では小学校教員・中学校英語科教員共に、英語教育における小中連携の必要性を認め、授業参観や研究会に参加するなどの取り組みがなされている実態が明らかになった。特に、「受け入れる側」の中学校英語科教員の小中連携に対する意識の高さが見られた。しかし、小中連携を考える上で、最も基本となる自らの勤務校区内における小中連携は、十分行われていないという実態も同時に明らかとなった。小学校英語活動の目標は「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション活動の素地を養う」ことであり、中学校英語科の目標「外国語を通じて、言語や文化について理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、書くこと、読むことなどのコミュニケーション活動の基礎を養う」に繋がっていく。英語を学ぶ子どもたち

にとって、小中の英語教育が円滑に接続されるためには、学区内の小中学校が英語教育の連携に関して今まで以上に具体的な取り組みを推進することが必要である。

さらに、本研究によって、小学校英語活動を通して育てたい「態度」に関して、小学校教員と中学校英語科教員の意識の違いは大きくないことが明らかになった。しかし、小学校英語活動を通して育てたい「技能」に関しては、小中教員間で意識の差が見られた。特に、文字の指導に関する意識の違いが明らかになった。また、中学校英語科教員は「英語の言語の面白さ豊かさに気付く」という言語に対する興味関心を高める指導も小学校外国語活動に期待しており、小学校教員が英語活動の中でどのように取り組んでいけるか、今後、検討していくべき課題である。

小中学校共に多忙な日常の業務の中で、小中の連携の時間を生み出していくことは大変難しい事である。しかし、小学校英語活動、中学校英語科の学習の内容や成果、課題を互いに理解し、小学校で育った態度や技能を中学校での英語教育に繋ぎ、さらに伸ばしていくような取り組みがなされなければ、英語教育における子どもたちの成長は期待できない。そこで、まず、校区内の小学校・中学校の教員が気軽に声を掛け合っ、協力していける人間関係を作る機会を増やしていき、密度の濃い連携を行うことが大切であると考え。最後に、小中連携で今後実施していくべき具体的な方策を提案し、本研究のまとめとする。

- ① 新年度の初めに校区内の小中連絡会を持ち、小学校高学年担任と、中学校英語科教員が指導要領の指導目標や指導内容について研修し年間計画等の検討交流を行う。
- ② 小学校教員が1学期中に校区内の中学校の英語授業を参観し、中学校英語科教員が3学期末に小学校外国語活動の授業を参観する。それにより、児童・生徒の英語の「育ち」を把握する。
- ③ 小学校・中学校互いの教材をいつでも手にとって参考にできるようにする。(中学各学年の教科書、『英語ノート1・2』)
- ④ 校区内の小学校・中学校の年間指導計画をいつでも手にとって参考にできるようにする。
- ⑤ 校区内の小学校英語活動や中学校英語科の全校研究会等の場に小中の教員が参加し、授業を参観したり、意見交換を行ったりする機会を持つ。
- ⑥ 小学校英語活動で重点的に取り組み、育ててきた力を明確にして校区内の中学校に提示する。その具体的な方策として、小学校は、児童の活動の足跡(ワークシート・ビデオ等)を資料として中学校に提示する。
- ⑦ 小学校英語活動と中学校英語科で共通して学習するテーマ・項目を定め、その内容について互いに交流し合う。
- ⑨ 校区内で小中一貫した英語教育カリキュラムの作成を行う。

謝辞

本研究にあたり、多忙の中、アンケートにご協力いただき、ご回答いただいた岐阜市内の小・中学校の先生方に厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 樋口忠彦他 (2002) 「小学校英語活動に対する中・高英語教員の態度及び意識に関する研究」『日本児童英語教育学会 (JASTEC) 研究紀要』第21号、pp.19-43
- 松川禮子・木下邦幸 (2007) 『小学校英語と中学校英語を結ぶ—英語教育における小中連携—』高陵社書店
- 松川禮子・大城 賢 (2008) 『小学校外国語活動 実践マニュアル』旺文社
- 文部科学省 (2008) 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』東洋館出版社

資料 英語指導の小中連携に関するアンケート（中学校英語科教員用）

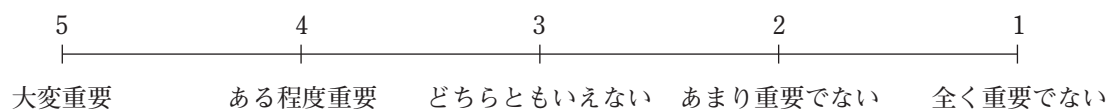
所属（ 中学校）年代（20代、30代、40代、50代）

1. 今までに小学校にご勤務されたことがありますか？○を付けて下さい。また何年間勤務されたかお書き下さい。
①ある（ 年間勤務） ②ない
 2. 小学校で英語活動の授業をされたことがありますか？○を付けて下さい。
①英語の授業をしたことがある。 ②英語の授業をしたことがない。
 3. 機会があれば、小学校で英語の授業を行ってみたいですか？○を付けて下さい。
①行ってみたい。 ②行ってみたいと思わない。
 4. 小学校の英語活動の授業を何回ぐらい参観されたことはありますか？○を付けて下さい。
①何度か参観したことがある。 ②一、二度参観したことがある。 ③参観したことがない。
 5. 小学校の英語教育に関する研究会・学会・講演会に参加されたことがありますか？○を付けて下さい。
①何度か参加ことがある。 ②一、二度参加した事がある。 ③参加したことがない。
 6. 小学校の英語教育に関する専門書や雑誌の特集記事などに目を通したことがありますか？○を付けて下さい。
①何度か目を通したことがある。②一、二度目を通したことがある。 ③目を通したことがない。
 7. 校区内の小学校の英語活動の年間計画や指導内容や、指導方法を把握していますか？○を付けて下さい。
①ある程度把握している。 ②少しは把握している。 ③全然把握していない。
 8. 校区内で小学校の教員と中学校の教員が英語活動や英語の授業について話し合ったことがありますか？
○を付けて下さい。
①何度か話し合ったことがある。②一、二度話し合った事がある。 ③話し合ったことがない。
- ① ②とお答えになった方は、どんな点を話し合いましたか？具体的にお書き下さい。

--

9. 英語教育について小中連携は必要だと思いますか？○を付けて下さい。
① 大変必要。 ②ある程度必要。 ③どちらとも言えない。 ④あまり必要でない。 ⑤全く必要でない。

10. 9. で「大変必要」「ある程度必要」と答えた方は、小中連携を行う上で、次の事項はどの程度重要だと思いますか？それぞれの項目について、下に示した5段階から選び、番号に○を付けて下さい。

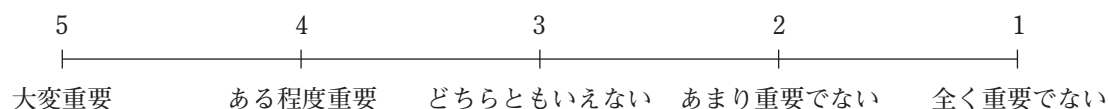


- | | | | | | |
|-------------------------------|------------------|---|---|---|-----------------------------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ----- ----- ----- ----- ----- | | | | | |
| ① | | | | | 小・中学校がそれぞれ互いの英語指導法について学習する。 |
| ② | | | | | 小・中学校が互いの授業参観をする。 |
| ③ | | | | | 小中一貫したカリキュラムの作成をする。 |
| ④ | | | | | 小学校英語教員が中学校で授業をする。 |
| ⑤ | | | | | 中学校英語教員が小学校で授業をする。 |
| ⑥ | その他（具体的にお書き下さい。） | | | | |

11. 9で「あまり重要でない」「全く重要でない」と答えた方は、理由を下記の中から選び番号に○を付けて下さい。

- ① 小学校外国語活動にあまり期待していないから。
- ② 小学校の外国語活動と中学校の英語学習は目的や指導目標が違うから。
- ③ 小学校ごとに学習成果が違い、生徒の英語力の足並みがそろっていないから。
- ④ 校区内の小学校で連携して、足並みをそろえることを優先してほしいから。
- ⑤ 現在でも多忙であり、小中連携を考える時間的余裕がないから。
- ⑥ 中高の連携も不十分であり、そちらを優先したい。
- ⑦ その他（具体的にお書き下さい。）

12. 小学校外国語活動において、小学校で育ってほしい態度面での力として、次の事柄はどの程度重要だと思いますか？それぞれの項目について、下に示した5段階から選び、番号に○を付けて下さい。

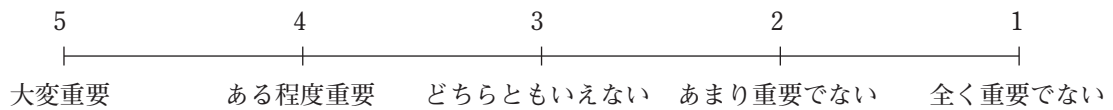


- | | | | | | |
|-------------------------------|---|---|---|---|---------------------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ----- ----- ----- ----- ----- | | | | | |
| ① | | | | | 大きな声で話す。 |
| ② | | | | | 相手の目を見て話す。 |
| ③ | | | | | ジェスチャーを付けて話す。 |
| ④ | | | | | 表情豊かに話す。 |
| ⑤ | | | | | 誰とでも積極的に会話しようとする態度。 |
| ⑥ | | | | | 友達と教え合う態度。 |

- 5 4 3 2 1
- ⑦ |-----| 分からない時は聞き返す・確認する態度。
- ⑧ |-----| 分からない英文でも推測して聞こうとする態度。
- ⑨ |-----| 会話をつないでいこうとする態度。
- ⑩ |-----| ALT の話の内容を類推する態度。
- ⑪ |-----| 外国の人に積極的に話しかける態度。
- ⑫ |-----| 落ち着いて学習する態度。
- ⑬ その他（具体的にお書き下さい。）
-

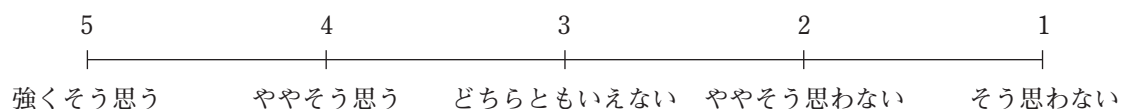
13. 学校外国語活動において、小学校で育ってほしい力として、次の事柄はどの程度重要だと思いますか？

それぞれの項目について、下に示した5段階から選び、番号に○を付けて下さい。



- 5 4 3 2 1
- ① |-----| 外国の生活・文化・行事を知ること。
- ② |-----| 外国文化と日本文化との比較すること。
- ③ |-----| 英語の言語の面白さや、豊かさに気付くこと。
- ④ |-----| 簡単な英単語を聞いて意味が分かること。
- ⑤ |-----| 簡単な英単語の文字を見て意味が分かること。
- ⑥ |-----| 簡単な英単語を正しく発音すること。
- ⑦ |-----| 基礎的な英文法を習得すること。
- ⑧ |-----| 日常的な会話表現ができること。
- ⑨ |-----| ローマ字を習得すること。
- ⑩ |-----| アルファベットを読むこと。
- ⑪ |-----| アルファベットを書くこと。
- ⑫ |-----| 簡単な英文を聞いて意味が分かること。
- ⑬ |-----| 簡単な英文を音読すること。
- ⑭ |-----| 簡単な英文を書くこと。
- ⑮ |-----| ALT の話を聞いて大まかに内容を理解すること。
- ⑯ |-----| 外国人と簡単な英会話ができること。
- ⑰ その他（具体的にお書き下さい。）
-

14. 小学校で外国語活動が始まったことにより、中学校1年生の英語授業の指導において、以前に比べて指導をしやすくなったこと、または、指導をしにくくなったことがありますか？ それぞれの項目について、下に示した5段階から選び、番号に○を付けて下さい。



- | | | | | | |
|-------------------------------|------------------|---|---|---|-----------------------------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| ----- ----- ----- ----- ----- | | | | | |
| ① | | | | | 発音が優れている。 |
| ② | | | | | リスニング能力が優れている。 |
| ③ | | | | | スピーキング能力が優れている。 |
| ④ | | | | | リーディング能力が優れている。 |
| ⑤ | | | | | ライティング能力が優れている。 |
| ⑥ | | | | | 語彙が豊富である。 |
| ⑦ | | | | | 文法能力が高い。 |
| ⑧ | | | | | 英語学習に対する関心・意欲が高い。 |
| ⑧ | | | | | 外国人に対してものおじしない。 |
| ⑨ | | | | | 中学校の英語学習に対する新鮮さが低くなる。 |
| ⑩ | | | | | 文字学習に抵抗感がある。 |
| ⑪ | | | | | 小学校で既習した事項を再び学習することに抵抗感がある。 |
| ⑫ | | | | | 文法事項の学習に抵抗感がある。 |
| ⑬ | | | | | 歌やゲームの活動に意欲を示さない。 |
| ⑭ | | | | | 会話活動に意欲を示さない。 |
| ⑮ | | | | | 落ち着いて学習できない。 |
| ⑯ | | | | | 英語力の個人差がある。 |
| ⑰ | その他（具体的にお書き下さい。） | | | | |

15. 小学校外国語活動を受けて中学校の英語学習で変えた方が良いと思う点があったらお書き下さい。

16. 小学校外国語活動の指導について、小学校への要望があったらお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

